

創立 30 周年記念行事 記念講演会・交流会を開催

REPORT

当機構は、昭和 59 年（1984 年）7 月 2 日に設立され、昨年で創立 30 周年を迎えました。これを記念し、去る 10 月 14 日、ホテルルポール麹町において、「記念講演会」及び「交流会」を開催し、賛助会員企業の皆様や、国土交通省をはじめとする関係団体の皆様方に多数ご参加をいただきました。

記念講演会の開催

「記念講演会」は、午後 3 時から、同 3 階のマープルの間で行われました。

冒頭、当機構の井上啓一副理事長より、「多くの会員企業の協力を得て官民パートナーシップの構築実現のために様々な事業展開できたのも、賛助会員をはじめ関係各位のご指導、ご協力によるものと感謝するとともに、30 周年を契機として道路の新しい方向性を切り開き、時代の要請に積極的かつ的確に応えられるよう今後も官民の橋渡し役として努力します。」と挨拶しました。

引き続き、国土交通省深澤淳志道路局長より「道路行政の今後の展開」について、慶應義塾大学川嶋弘尚名誉教授より「道具としての ITS と今後の展開」について、関西大学白石真澄教授より「高齢者の安心・安全を支える道づくり」について、それぞれ講演をしていただきました。



井上副理事長

（記念講演の講演内容（概要）については、25 ページから 36 ページに掲載しています。）

交流会の開催

記念講演会終了後の午後 6 時から、同 2 階のロイヤルクリスタルの間において、賛助会員の皆様や国土交通省をはじめ、関係団体の皆様など多数のご出席をいただき、交流会が開かれました。

冒頭、当機構の渡辺捷昭会長より、「官民のパートナーシップを強化し、民間活力を最大限にコーディネートすることが重要であることから、当機構も、50 年後、100 年後の





渡辺会長



山本取締役

社会、地域、暮らしの中での道路の役割を踏まえ、新たな社会システムや産業の創出に向かって進んで参りたい。2020年の東京五輪を一つの契機として世界に先駆けた取り組みを提案し、全国で実施をしていくことが豊かで多様性のある未来を築く一里塚になるものと確信しています。今後とも役職員一同、全力で取り組みます。」と挨拶をしました。



杉山理事長



深澤道路局長

続いて、来賓の国土交通省深澤淳志道路局長より、「少子高齢化や社会インフラの老朽化、大規模災害リスクの高まる中、道路を賢く使うために「ETC2.0」の導入など既存ネットワークの最適利用を図ることが重要であり、道路の老朽化対策・長寿命化、大規模災害への体制の構築など必要な対策の推進も必要です。将来の新たな国土、社会、暮らしを念頭に道路の役割を考えて対応していくことが重要であり、産官連携の中核機関としてHIDOの果たすべき役割は益々大きく、これまでの成果をさらに充実させ、時代の要請に応えることを期待しています。」と、お言葉を頂きました。

最後に、当機構の杉山雅洋理事長より、「我が国は、人口減少が進むとともに超高齢化社会を迎えることから、単に道路整備の推進だけでなく、今後は、既存ストックの有効活用等、道路を賢く使うことが望まれている。そのためにも官民の連携を一層強化し、民間活力を最大限に活用することが重要であり、30周年を契機として将来を見据え、道路の新しい方向性を切り開くとともに、未来に向けてのまちづくりや地域づくり等にも的確に応えられるよう、産学官の連携機関として益々努力します。」と挨拶し、盛会のうちに交流会を終了しました。

この後、賛助会員を代表して、東日本電信電話株式会社の山本康裕取締役から乾杯のご発声をいただき、ご参加いただいた賛助会員企業の皆様や、国土交通省をはじめとする関係団体の皆様方で交流を深めていただき、大いに盛り上がりを見せました。

